

Kyoto Shimbun 2009年7月14日(火)

## “ダチョウ卵”マスク、新型インフルにも効果 府立大教授開発

京都府立大生命環境科学研究科の塚本康浩教授が開発したダチョウの卵から作ったインフルエンザ抗体マスクは、日本で感染が広がった新型インフルエンザにも防御効果があることが13日までに分かった。懸念される今秋以降の「大流行」に備え、新型ウイルスを使った抗体開発も進めるといふ。

### ■大流行備え 抗体生産加速

国内の患者から採取された5株の新型インフルエンザウイルスの培養液をマスクに垂らすと、99%以上のウイルスが不活性化された。マスクは新型インフルエンザと同じ型(H1N1)など4種類のウイルスの抗体を染みこませたフィルターを使っており、新型ウイルスの原型となった豚インフルエンザウイルスではすでに効果が確認されていた。

抗体は、ウイルスを投与した雌のダチョウが生んだ大型の卵から精製するため、大量生産できる。新型ウイルスから抗体を作れば、より少ない量で防御効果を発揮することが期待される。塚本教授は「新型ウイルスの防御に特化した安価なマスクの生産も可能になる」としている。